

銀漢亭日録



伊藤伊那男

散、二十時半閉める。

6月24日(月)▼超閑散。二十一時に閉めて「毘道庵」で浅酌。

25日(火)▼「ひまわり句会」九人。環順子さん。

26日(水)▼「雛句会」十五人と盛況。「鷹」誌創刊五十五周年記念号「平成、あの年」の平成十五年の頁。私が銀漢亭開店の年を書いたが……届く。

27日(木)▼閑散！

28日(金)▼「運河」の佐藤宏之助さん。「金星句会」あと五人(大阪の中島凌雲くんも)。氣仙沼の一砂さん。明日、早いので二十一時半閉める。

29日(土)▼二十一時、北鎌倉駅集合。「鎌倉鍛練句会」。小雨。四十三人。浄智寺へ亀ヶ谷切通しへ扇ヶ谷。英勝寺と寿福寺を巡る。鎌倉駅から逗子へ。駅前で昼食。キングサーモンの西京焼とちりめんじゃこの井うまい！「レクトーレ葉山 湘南国際村」へ。十句出し句会二回。

30日(日)▼十句出し句会。終って十三時過ぎ解散。逗子に出て、こしだまほさん推薦の「つく志」。刺身、鰯フライなどで打上げ。三十人ほどいたか。あと大船に出て「いちぜん」で二次会。十五人ほどいたか。結局帰宅は二十三時。

7月1日(月)▼六月の月次表。会員欄選評など。店、「かさ、ぎ俳句勉強会」あと九人。うさぎさん、敦子さんなど。

2日(火)▼青畝についての講演録を銀漢誌用で禪次さんがテープ起こしをしてくれており、その校正。同人評執筆など。店、超閑

3日(水)▼彗星集選評書いて八月号の執筆終了。週末の八戸での講演会の要旨固める。店、「きざらぎ句会」あと五人。「宙句会」あと十二人来て、ヴァヴクリコで私の誕生日を祝って下さる。

4日(木)▼「十六夜句会」あと九人。

5日(金)▼九時、東京発「はやて」にて八戸へ。駅で「たかな」主宰、吉田千嘉子さんの出迎えを受く。当方、井蛙、展枝、天野小石さん。「八食センター」の回転寿司「市場寿司」に入る。巨大な店。早速、「田酒」(これは秋田の酒だが)で乾杯。色々うまいものあり、中でも海鞘の一夜漬！あと十和田方面へ。奥入瀬の流や流れを楽しみ、「葛温泉」に入湯。あと「ホテル十和田荘」に投宿。湖畔、十和田神社など散策。「八食センター」の魚屋で買った、海鞘、海胆、粒貝で酒盛り。海鞘に生海胆を乗せるなど。この三点絶品！宿の食事はそこそこ。

7日(日)▼十時半、「八戸グランドホテル」。「薫風」創刊三十五周年記念大会に選者、講演で呼んでいただいたもの。午前中は式典に参加。午後一時より一時間、「風土性俳句を顧みる」の題で「風」の歴史などについて喋る。十四時半より祝宴。木附沢麦青氏に初めてお目に懸かる。あと、「吟翠」という店で二次会。あと同行三人のいる店に。更に部屋に戻って少し。祝句(鮫角のともし灯永久に風薫る)《薫風に和毛を散らせて海猫の島》

8日(月)▼八時発のバスにて下北半島吟行へ。畑中とほおる先輩の案内。「伊吹嶺」の栗田やすし先生。「角川」の立木編集長、「俳句界」の河内静魚編集長と同行。淋代の浜あたりから晴れ渡る。

尻屋崎で寒立馬。恐山へ。「むつぐランドホテル」で昼食と出句三句。七戸十和田駅で「薫風」の皆様と別れる。新幹線八戸駅から東京からの三人組と合流。なんと一昨日に行った市場で、海胆、海鞘、粒貝と全く同じものを買って来たとして、またまた酒盛りで東京へ。今日、店は休み。隣の車両は安倍総理大臣が仙台から乗車し、厳重警戒中。車内販売のお姉さんに聞くとCCレモンを飲んで寝ておられるようだ。

9日(火)▼「信州伊那月俳句大会」の事前投句の選句。千六百句ほどあり。途中、伊那市役所より催促の電話入る。昨日が締切り日であった。店、「火の会」十二人ほど。八戸から送った干物類。新潟の若井新一さんの中着茄子も今日から到来。「火の会」の面々、来合わせた清人さん各々、ヴァヴクリコ開けて私の古稀を祝って下さる。

10日(水)▼十一時半、「梶の葉句会」が「放心亭」にて我部敦子さんの出版記念祝いの昼食会。ついでに私の誕生日も祝って下さる。店は超々閑散にて二十時過、閉めて帰宅。中村孝哲さん句集の最終校正。「銀漢」八月号の校正。

11日(木)▼新谷房子さん句集選句。店、「極句会」。「丘の会」のあとの池田、坪井、蘭さん。

12日(金)▼超閑散。十九時半閉める。

13日(土)▼十時、発行所、運営委員会。十三時、麹町会館にて「銀漢本部句会」五十数名。あと近くの中華料理店にて親睦会。あと渋谷で小酌。

14日(日)▼旅でお世話になった方々への礼状。中元礼状その他。雨。店、午後、元の金融会社時代の同窓会。二十年前に倒産状態になっ

た会社なのに同窓会が続く。今回は十二人と少ないけれど。十五時過ぎから二十一時まで思ひ出や近況など。

15日(月)▼「海の日」。銀漢のエッセイ、自句自解、盤水の一句、私の八句など。夕方、杏一家来て、家族十一人(龍正くんは学校の登山で信州)が私の古稀を祝ってくれる。嬉野の豆腐鍋など。颯斗(小二)が「たなばたはいなおの年が一つ上がる」、瑛斗(小五)が「年一度織姫伊那男出合う時」と祝句をくれる。

16日(火)▼店、ホトトギス系「閑句会」六人。他、閑散。

17日(水)▼店、「三水会」四人。一緒に飲む。俳人協会の講演会を聞いていただいたという「岳」の方三人訪ねてきて下さる。NHKOBの水津さん、歌人の梅内美華子さん(八戸出身)と。

18日(木)▼店、「銀漢句会」あと十六人。水内慶太、鈴木忍さん。慶太さん、ヴァヴクリコ二本。敦子、清人さん。

19日(金)▼「薦句会」選句。あと店へ九人。「金星句会」あと五人。

20日(土)▼十三時、日本橋スタバで作句。十四時、「鯨の与志喜」にて「纏句会」。十四人。あと茶碗蒸、鯉の唐揚げ、かますの塩焼。握り一通りなど。酒は「八海山」。

22日(月)▼店、「演劇人句会」七人。

23日(火)▼「萩句会」選句。店、他結社の方々(忍、うさぎ、宗一郎さん他七人)の句会。「ひまわり句会」あとの九人。など。明日から週末まで休み。

24日(水)▼九月号の会員同人選句稿を発行所郵便便受けに入れて八王子へ。本日から週末まで、店は休み。八王子に禪次、洋征、高水、湖童の高齢者、私、井蛙の計六人金沢行バスに乗車。